

香川生物 (Kagawa Seibutsu) (36) : 19-20, 2009

香川県香東川の橋梁におけるカワガラス *Cinclus pallasii* の営巣

野 口 和 恵

〒761-0121 高松市牟礼町牟礼1007-3 株式会社 四電技術コンサルタント

A record of the Brown Dipper *Cinclus pallasii* nesting at the bridge in the Koutou River Kagawa Prefecture, Japan

Kazue Noguchi, Yonden Consultants, 1007-3Mure, Takamatsu, Kagawa 761-0121, Japan.

カワガラス *Cinclus pallasii* は山地の溪流に生息し、トビケラやカワゲラ等の水生昆虫の幼虫を食べる。繁殖期には岩石の間、滝裏の岩、溪流畔の崖下等に営巣し、近年では橋桁や水門の隙間等の人工物にも営巣することが知られている (清棲, 1966; 中村・中村, 1995)。香川におけるカワガラスの生息地域は県南部の溪流に限られ、個体数も少ない鳥である (香川県, 1980; 日本野鳥の会香川県支部, 1996)。著者は、香川県の橋梁における鳥類の営巣状況を調査した際に、カワガラスの巣を発見したので記録として報告する。

調査は香東川 (標高 3 ~ 310m) および支川 (堂ヶ平集落付近を国道193号沿いに流れる川) に架かる橋梁41箇所を対象とし、鳥類の

営巣の有無を調べた。橋梁に鳥類の巣があった場合、巣の同定には清棲 (1966), 水野 (1996), および柿澤・小梅途 (1999) を参考にした。調査の結果、コシアカツバメ *Hirundo daurica* およびカワガラスの巣が確認されたが、今回はカワガラスについてのみ報告する。

2007年4月29日14時50分、高松市塩江町安原上東に位置する香東川の橋梁 (橋名は不明) で約30cmのドーム状の巣を見つけた。巣が架けられていた位置は、主桁の中央部の内側であった (図1)。橋は全長約10m、幅2.4mで、河川からの高さは約4m、車一台が通行できるほどの小さい橋であった。

巣は橋梁の下からまる見えの状態であり、



図1. 橋梁に架けられた巣。矢印は巣の位置。(2007年4月29日撮影)

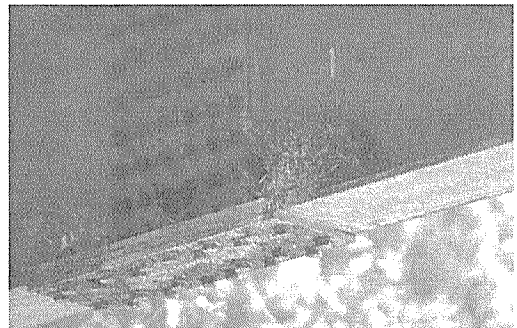


図2. 巣に入るカワガラス成鳥。(2008年3月1日撮影)

緑色の苔で覆われ（部分的に茶色に乾燥）、側面には約5cmの入口がひとつあった（図2）。巣の入口の下方には白い糞がまとまってあり、この巣が利用されていた形跡が見られた。巣の形状、大きさ、構成材料からカワガラスの巣と推定された。しかし、巣を確認していた約15分の間に、巣を出入りする個体や巣から鳴き声等は確認できなかった。カワガラスの一般的な繁殖期は3～6月で、四国では1月末に営巣にかかることもある（中村・中村, 1995; 和田, 1973）。巣を見つけたのは4月末であったことからすでに繁殖は終了していた可能性が考えられた。

2008年3月1日11時55分、カワガラスの繁殖期に合わせて橋梁の巣を確認にいくと、巣は2007年時と同じ位置にあった。2007年時と比べ、巣を覆う苔は全体的に褐色に乾燥しており、入口とその周辺部のみが青々としていた。巣の大きさは入口側が約5cm大きくなっており、2007年時の観察以降に新たな苔が追加され巣が修繕されたと考えられた。

巣の主を確認するため、同日（2008年3月1日）の12時から30分間、巣と河川の上下流を確認できる場所からSWAROVSKI製双眼鏡（10倍）を用いて観察をおこなった。その結果、成鳥のカワガラス2個体が巣の入り口および巣直下の川岸で観察された。観察された行動は、巣への出入りが2回、魚（種は不明）をくわえながら他個体へのさえずり、および他個体へ翼を震わせるディスプレイであり、これらの行動から2個体はこの巣の繁殖ペアと推定された。

2008年3月15日、15時30分から30分間2回目の観察をおこなった。成鳥のカワガラス1個体が川の上下流に飛翔するのが見られた。また、巣の入口から4個体の雛（幼羽が生えている状態）が見られ、この巣での繁殖が確認された。

2008年3月22日、16時30分から15分間3回目の観察をおこなったが、巣の周辺でカワガラスは観察されなかった。また、巣内には雛

は確認されず、すでに巣立ちをしたと考えられた。

カワガラスの橋梁における営巣例として、熊本県ではカワガラスの巣53例のうち26例（49%）が橋梁に架けられており、橋梁をよく利用することが報告されている（江口, 1990）。また、広島県では河川4本の橋梁83箇所を調査した結果、13箇所でカワガラスの巣が確認されている（藤井, 1985）。今回の事例では、カワガラスの巣は香東川の橋梁41箇所（山麓がせまる標高100m以上では27箇所）のうち1箇所で確認されたにとどまり、他事例に比べて営巣場所として橋梁の利用は少ないと思われる。江口（1990）によれば、カワガラスの営巣場所選択傾向は調査期間の4年間で変化し、橋梁の利用が増えたという。今後、香川県においても営巣場所として橋梁やその他人工物の利用が増加するかどうか注目したい。

なお、本稿をまとめるにあたり、校閲いただいた香川大学名誉教授金子之史先生に感謝いたします。

引用文献

- 江口和洋. 1990. カワガラスの営巣場所選択. *Jap. J. Ornithol.* 38: 141-148.
- 藤井格. 1985. 私たちの自然280: 8-13.
- 香川県. 1980. 香川県鳥獣目録.
- 柿澤亮三・小梅途銀次郎. 1999. 日本の野鳥巣と卵図鑑. 世界文化社, 東京.
- 清棲幸保. 1966. 野鳥の事典. 東京堂出版, 東京.
- 水野仲彦. 1996. 野鳥のくらし—卵から巣立ちまで—. 保育社, 大阪.
- 中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>. 保育社, 大阪.
- 日本野鳥の会香川県支部. 1996. 香川の野鳥ウォッチングガイド. 四国新聞社, 香川.
- 和田豊洲. 1973. 四国の野鳥. 高知営林局, 高知.